

「イタルダ・インフォメーション No.118 (2016年発行)」では、2015年中に起きた交通事故のうち、65歳以上の高齢歩行者が道路を横断中に発生した死亡事故の特徴と危険性についてまとめました。それから10年が経過した現在、高齢歩行者の道路横断中事故の傾向の変化について、2015年と2024年の事故発生状況を比較しながら、主な指標を基に整理します。



## 歩行中の死者数の約7割が高齢者

図1で示すとおり、2024年において歩行中に交通事故で亡くなった方は2015年から大きく減少し、高齢歩行者の死者数も同様に、1,048人から650人へと大きく減少しています。

しかしながら、歩行中の死者数全体に占める高齢歩行者の割合は、この10年間、7～8割の範囲で推移し、2015年と2024年の単年を比較すると共に約7割程度を占め、依然として高齢歩行者が交通事故に遭って死亡する危険性が高いことがうかがえます。

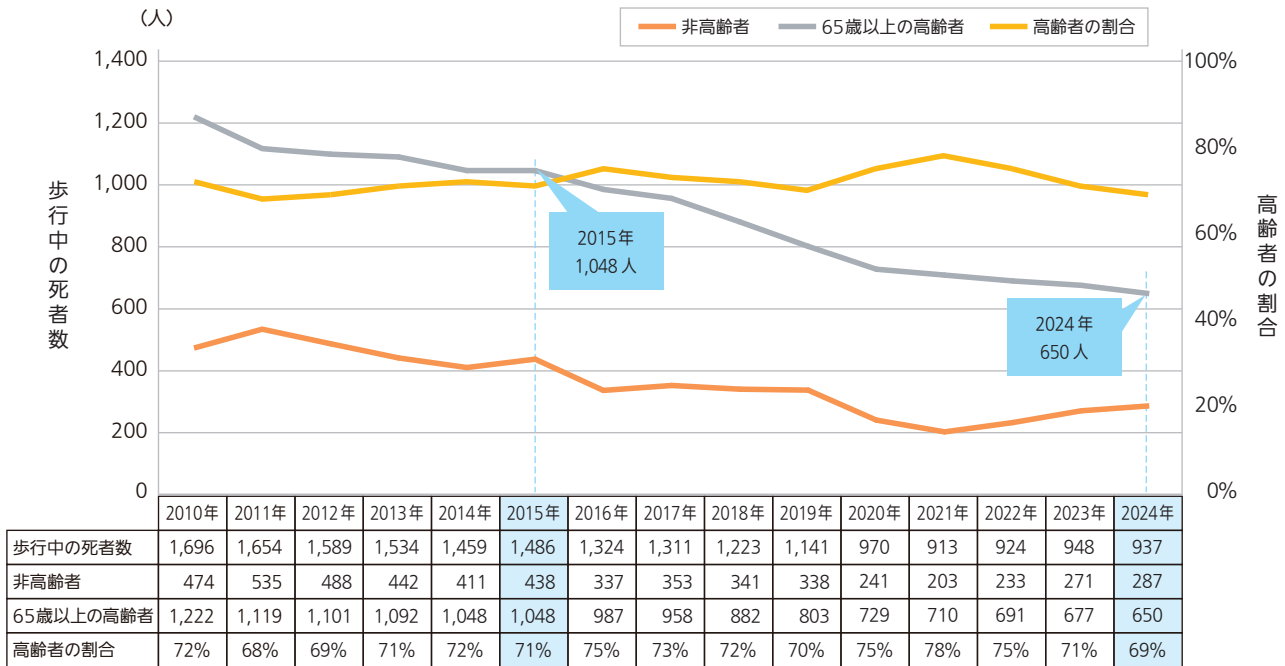


図1 高齢歩行者の死者数の推移 (2010年-2024年、1当+2当)

## 高齢歩行者の死亡事故の特徴

次に、高齢歩行者の死亡事故の特徴について、2015年と2024年を比較してみます。

高齢歩行者が事故に遭った時の事故類型について見てみると、図2に示すとおり、横断歩道以外の場所(横断歩道付近横断中、横断歩道橋付近横断中及びその他横断中)を横断中に自動車と衝突して死亡に至るケースは、2015年では約54%であり、2024年でもその傾向に大きな変化はなく、約49%と半数近くが横断歩道以外の場所を横断中に事故に遭っていることがわかります。

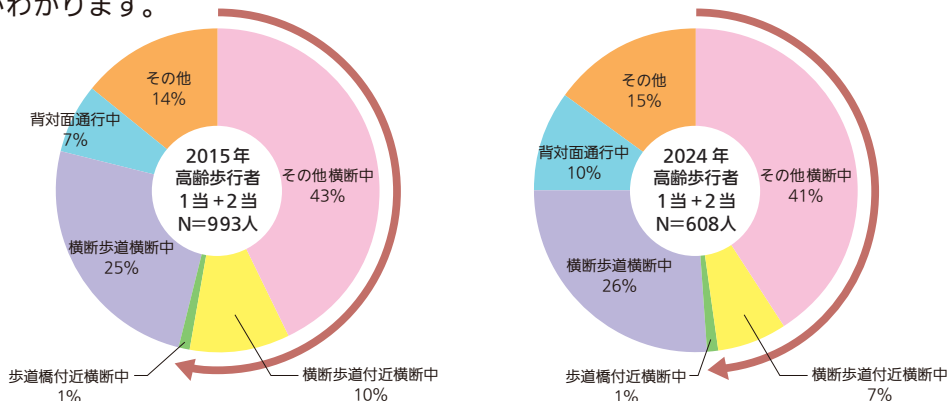


図2 事故類型別高齢歩行者の死者割合 (2015年・2024年)

ここからは、横断歩道以外の場所を横断中の高齢歩行者が自動車と衝突した死亡事故について着目します。

図3は、発生時間帯別の死者割合を示しています。全体的な傾向は夕方や早朝などの時間帯に多く発生しており、2024年も2015年と同様に大きな変化はみられませんが、時間帯別の死者割合で見ると、10年前と比較して、15時～16時台と18時～20時台（赤色点線枠）で構成率が減少している一方、21時台及び0時～9時台（青色点線枠）の構成率が増加している現状がうかがえます。

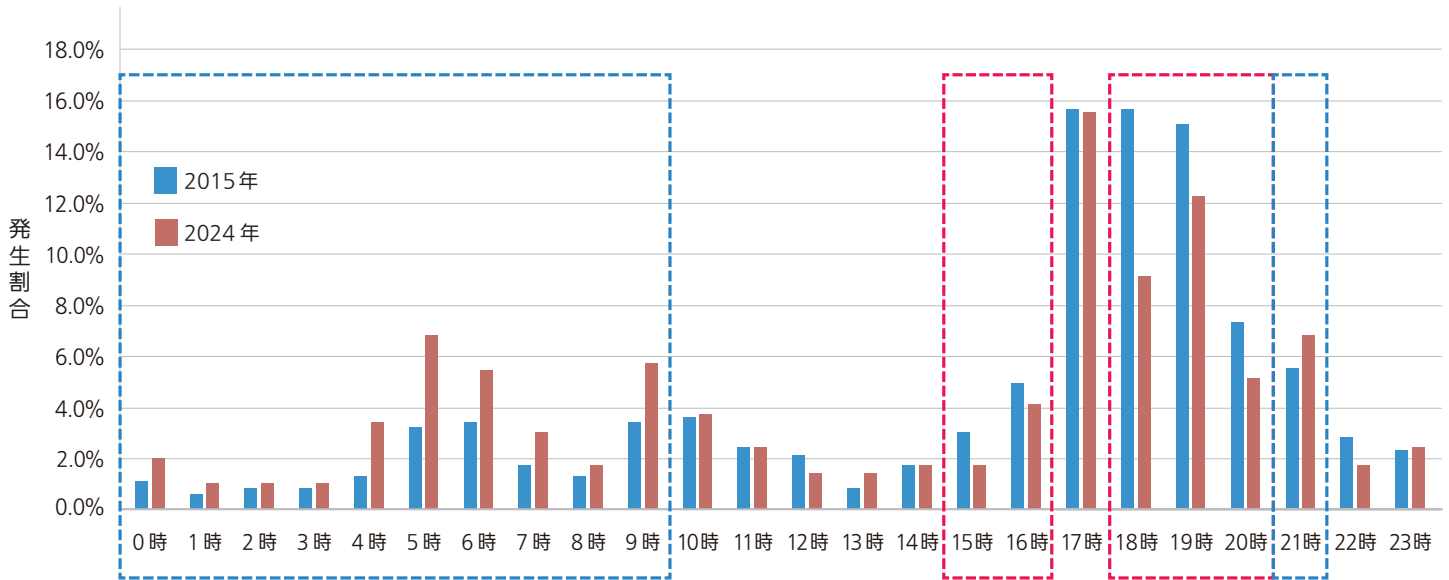


図3 時間帯別高齢歩行者の死者割合 (横断歩道以外横断中、2015年・2024年、1当+2当)

次に、自宅から事故発生地点までを距離別に見てみると、図4に示すとおり、2015年、2024年ともに自宅から500m以下の場所で亡くなっている高齢歩行者が最も多く、次いで50m以下、100m以下と続いており、発生傾向に大きな変化は見られません。

高齢者が「ちょっとそこまで・・・」と日常の行動として外出し、近くの場所へ訪問する際に道路を横断中、交通事故に遭っているケースが考えられます。

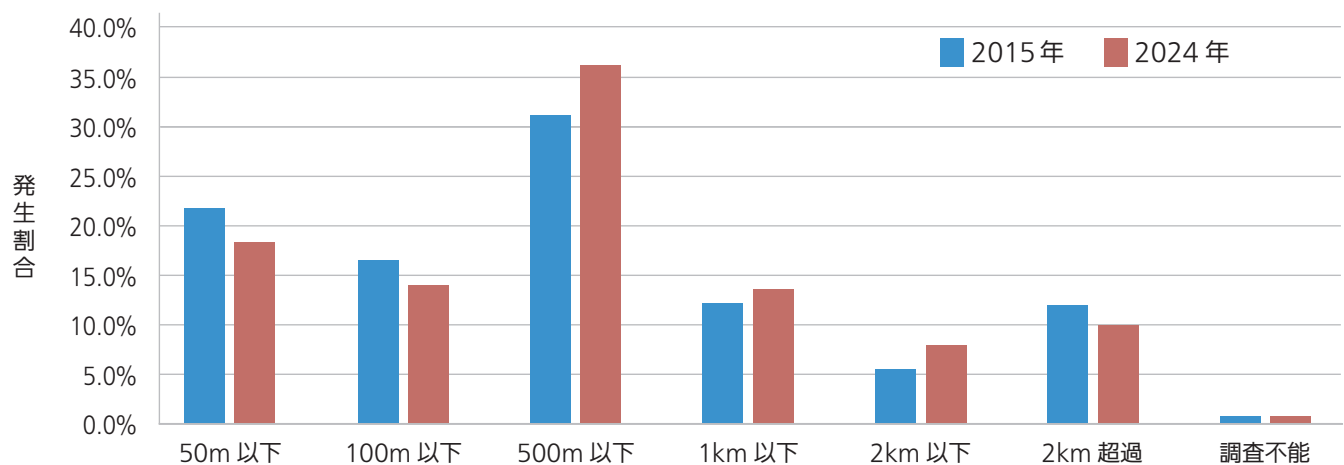


図4 自宅から事故発生地点までの距離別高齢歩行者の死者割合 (横断歩道以外横断中、2015年・2024年、1当+2当)

## 反射材の使用

最後に、夜間における反射材使用の有無別の死者数について見てみます。

図3で分析したように、高齢歩行者の事故割合は夜から朝にかけて増えており、特に早朝や9時台に大きな増加がみられます。その一方で図5に示したとおり、2015年では交通事故で亡くなった方のうち反射材を付けていた方は約1%と極端に低く、2024年の現在でも、わずか4%にしか増えていません。

近年、各種交通安全キャンペーンなどにより反射材着用の推奨と現物の配布が行われており、併せて点滅式自発光器や衣類、靴などに反射材が縫い込まれた商品も見受けられる中、その着用者が増えつつあるものと考えられますが、未だ大多数の方が使用されていない状況にあるようです。

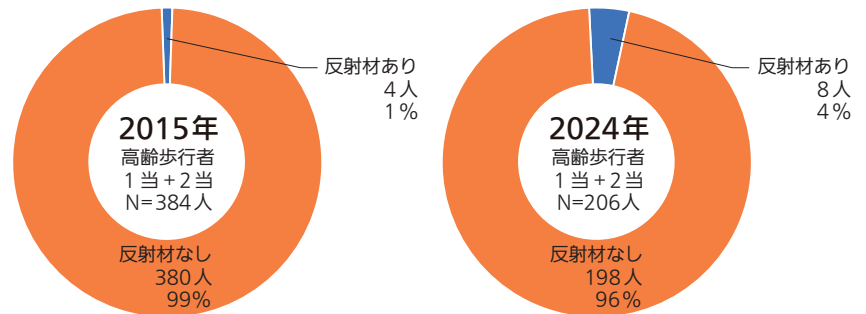
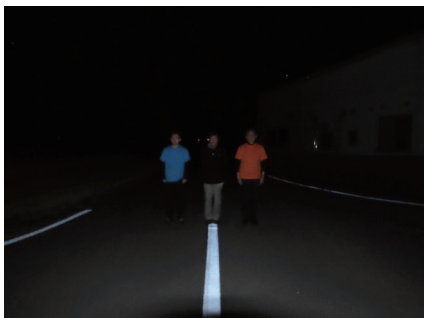


図5 夜間における反射材使用の有無別高齢歩行者の死者数（横断歩道以外横断中、2015年・2024年）

図6は、反射材着用の有無による夜間の歩行者の見え方を撮影した写真で、この写真でもわかるように、反射材の活用は自己（歩行者）の存在を周囲に知らせる効果があり、ドライバーに早期発見を促す効果的な安全対策として考えられます。



左：反射材なしでの上衣青、黒ズボンと上衣黒、白ズボンと上衣橙、黒ズボンの比較  
 右：反射材ありでの上衣橙、黒ズボンと上衣黒、白ズボンと上衣青、黒ズボンの比較

図6 夜間の歩行者の見え方

平素から交通が閑散な場所であっても、いつ自動車が走ってくるかわかりません。また、生活の場所で慣れている近所であっても油断は大敵です。

道路幅員の大小にかかわらず、横断する際は

近くに横断歩道がある場合は、横断歩道を渡ること。

横断歩道の有無にかかわらず、横断を始める前に確実な周囲の安全確認を行うこと。

が必要です。

特に夜間外出される際には、反射材の着用をお願いしたいと思います。

## まとめ（2015年との比較）

- ・高齢歩行者の交通事故による死者数は減少していますが、死亡事故全体に占める高齢歩行者の比率は横ばいの状況が続いている。
- ・横断歩道外を横断中の高齢歩行者の死者割合は、夕方から夜の早い時間帯に多かったものが、夜の遅い時間帯から早朝、9時台に比率の増加が変化している。
- ・反射材の使用率は微増で未だ不十分な状況にあり、引き続き反射材活用の有効性について理解を得るなど、自己防衛の器具として使用率の向上が望まれる。



公益財団法人  
**交通事故総合分析センター**  
 Institute for Traffic Accident Research and Data Analysis



<https://www.itarda.or.jp>

●イタルダインフォメーションに関するお問い合わせ先

✉ [koho@itarda.or.jp](mailto:koho@itarda.or.jp)